

安静時狭心症

男性 五十七歳 会社役員

主訴 胸のむかつき、吐気、昨晚より気分が悪い。

現病歴 十四年前の一月、心電図検査で、初めて異常ありといわれ、狭心症と告げられる。このとき、左胸部から左悸肋部にかけて動悸、時々チクチク痛む。その後、一昨年までの十二年間で九回、発作痛が出現。特に三年前は二回発作があり、このとき、不整脈もでて心室性期外収縮といわれる。今回は昨年未よりここ二～三週間気分が悪くなり、薬を変えてもらうが、仕事やゴルフのストレスが溜まり、現症状を訴える。

所見 沈遅やや洪。顔色が悪く、声に力がなく、心身共に疲れきっているという感じ。

治療 扁桃処置、腎虚の処置、心実処置（小腸兪、T4（巨厥兪）など）。心実処置はかなり時間をかけてやる。

経過 二回目（三日目）、今日ホルター心電図をとる。二日後に来たとき心電図の結果を聞くと、異常なし。同前処置。

四回目（十一日目）、膈中の圧痛まだあり。

五回目（十七日目）、自覚症ほとんど消失、このとき、沈遅は消失しており、扁桃、心実の処置のみ。

考察 彼の場合は、発症がいつも夜間や朝方であるので、安静時狭心症だと思います。狭心症の危険因子は、高血圧、高脂血症、タバコ、糖尿病、肥満、高尿酸血症、ストレスなどで、この患者は、このうち四つが該当します。

特にこの安静時狭心症は、冠状動脈のれん縮から心筋への酸素供給不足に陥るわけですが、この冠動脈のれん縮をおこさせているのは、自律神経系といわれています。

彼は中間管理職で、ゴルフや仕事上のストレスのうっ積から、この病気を引き起こしたのではないかと思います。疲れ切っているので、扁桃処置と腎虚の処置をしながら、心実つまり心の邪気をとるようにしました。